

中高生が自作電気カーで疾走

中学、高校生が手作りの小型電気自動車でスピードを競う「都市大エコーチャレンジカップ」(東京都大学主催)が二十七日、多摩市唐木田三の東急自動車学校で開かれた。雨が降る中、電気自動車の水しぶきを上げながら教習コースを疾走した。

多摩で「エコー」
18チームが参加



雨のコースで熱戦を繰り広げる選手たち=多摩市で

購読のお申し込み

0120-026-6666

配達・集金お問い合わせ

03-6610-2550

広告の(一)用命

042-522-0250

した。三つ以上の車輪で共通のバッテリーを動力源とするといった規定のもと、チームごとに自由に設計した車体を持ち込まれた。競技は一周五百メートルのコースをドライバーが交代して十周し、タイムを競う。各

チームともバッテリー周辺をテープで覆うなど万全の雨対策でレースに臨み、加速、減速を繰り返しながらコーナーが続く難コースに挑んだ。優勝は茨城県立波崎高の機械工作部のマシンで、アルミを多用して軽量化を実現した。キャプテンの三年生、岩崎海(うみ)は「雨でブレーキが効きにくくコーナリングが難しくかった」とレースを振り返った。(栗原淳)

●この記事・写真等は中日新聞社の許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。